

2026年3月19日

Press Release

風間サチコ展：方丈ルームの1000里眼

KAZAMA Sachiko: Clairvoyance in a 9m² room

会期：2026年6月5日（金）－11月15日（日）

会場：弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市）



《ありがとう、我が愛する白鳥よ！》2026年 作家蔵
©Sachiko Kazama Courtesy of the artist and MUJIN-TO Production Photo by Kei Miyajima
油彩 97.0×145.5cm

「私は窓を閉じて千里を望む。」

四畳半のアトリエから世界を射抜く、風間サチコの東北初個展

弘前れんが倉庫美術館では、2026年6月5日（金）から11月15日（日）まで、「風間サチコ展：方丈ルームの1000里眼」を開催します。本展は、東京を拠点に活動する風間サチコ（1972年生まれ）の東北初となる個展です。初期作から近年の大型木版画に加えて、作家が新たに取り組む油彩などによる絵画を初公開します。

風間サチコは、黒一色で刷られた木版画を主な表現手法として、近代化によって変化した日本社会に関心を寄せ、国家、資本主義、科学技術を象徴するモチーフを軸に、それらがもたらした進歩の裏側にある犠牲や矛盾を鋭い視点で描いてきました。オリンピック、東日本大震災後の原発事故などの時事的なトピックから学校などの身近な場所まで、近現代の社会的事象を題材に、文学、神話、個人的記憶を大胆に交差させた作品で知られています。

本展のタイトルは、鴨長明が記した随筆『方丈記』から着想を得ています。鴨長明は本書で、四畳半ほどの部屋で、必要最小限の調度品や生花、本などに囲まれながら、歌を詠むなどして生活をおくったことを綴っています。風間にとって、自宅の四畳半の居間もまた、本を読んだり作品の構想を練ったりする、思索の場所です。外界から距離を置いたこの空間は、千里眼のように、過去・現在・未来へと思考を巡らせ、世界を見つめ、想像力を膨らませるための場でもあります。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1

本展では、風間の1990年代の初期作から近年の代表的な木版画、そして弘前で展示にあわせた最新作の絵画まで、約60点を紹介します。新作の油彩画では、弘前で出会った一冊の本がきっかけとなって生まれた「白鳥」を描いたシリーズを展示します。本展に向けたリサーチで目にした、平内町の^{あさどころ}浅所海岸や青森市の^{がっぼ}合浦公園などの風景などが登場し、歴史や文学、伝説のイメージと重ね合わされます。また、青森や岩手の旧南部藩で遊ばれていたとされるカルタの一種、「黒札」の図案を巨大化させたアクリル画にも取り組みます。あわせて、風間サチコの「方丈ルーム」での作品の思索の軌跡を辿ることができる、部屋型のインスタレーションも公開します。

本展は、近現代の社会や制度、歴史を起点に、壮大な空想の物語を編み出す、風間の活動の軌跡と現在地を示す機会となります。



《白鳥の聲が聞こえる》2026年 作家蔵
©Sachiko Kazama
Courtesy of the artist and MUJIN-TO
Production
Photo by Kei Miyajima
油彩 22.7×15.8cm

展覧会のみどころ

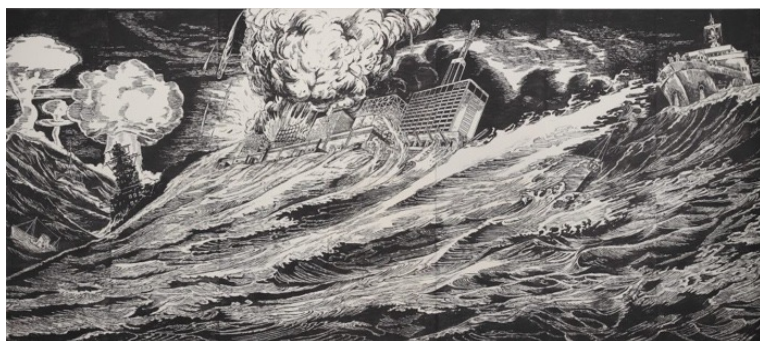
初の試みとなる油彩画を初公開

新作の油彩画では、文学や音楽に登場するさまざまな白鳥をモチーフにした作品を発表します。風間が白鳥に注目したきっかけは、2015年に、青森公立大学国際芸術センター青森（ACAC）で滞在制作をしていたときに訪れた弘前の古書店で、19世紀フランスの小説家ヴィリエ・ド・リラダンの『トリビュラ・ボノメ』を手にしたことでした。本書は、主人公であるボノメ博士が、科学的・理性的に世界を理解しようとしているにもかかわらず、奇妙で不条理な状況に巻き込まれる様子を描いた幻想小説です。例えば、ここに収録された『白鳥扼殺者』^{やくさつしゃ}という短編では、主人公の博士は、締め殺される瞬間の白鳥の鳴き声が世界一美しい音色だと知り、その鳴き声を確かめるべく、中世の騎士の格好で白鳥を殺しに水辺へ向かいます。ここでの白鳥は、個人の感情や想像力、耽美的な美しさといった、人間の科学的ではない非合理的な美の存在の象徴であり、この物語は新作の《白鳥扼殺者》として結実する予定です。

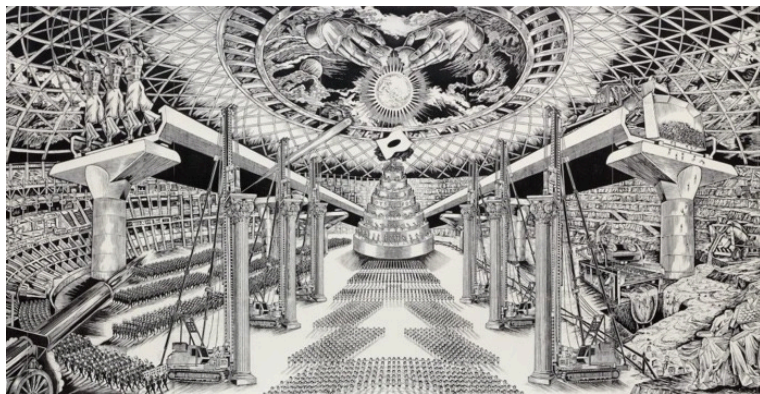
また、《ありがとう、我が愛する白鳥よ！》（2026年）は、リヒャルト・ワーグナーのオペラ『ローエングリン』の主人の騎士が、窮地に陥った姫を助けるために、白鳥が引っ張る小船に乗って登場する場面が、^{なつどまり}夏泊半島の^{ひらないまち}平内町・^{あさどころ}浅所海岸の風景に取って代わり、ここに伝わる白鳥にまつわる伝説が重ね合わせられています。風間は、こうした日本各地に残る身近な近代の舞台と、オペラや小説、伝説上のイメージを組み合わせることで、私たちの日常と隣り合わせのロマン主義的な空想世界を描き出そうとします。

近年の代表的な木版画作品も多数展示

吹き抜ける空間が特徴的な当館の展示室を中心に、近年の風間の活動を象徴する大型の木版画を展示します。2011年の東日本大震災と福島第一原子力発電所事故を契機に制作された《^{あゝ} 怒涛の閉塞艦^{どとう}》（2012年）では、核と原子力をめぐる歴史上の災害と人間社会の関係を描き出し、《デイスリンピック2680》（2018年）では、2020年に予定されていた東京オリンピックと、1940年に開催が予定されつつも戦争のために開催が見送られた幻の東京オリンピックを重ね合わせて描きました。《第一次幻惑大戦》（2017年）では、江戸時代の小説に登場する架空のヒーローである妖術使いの児雷也が、現代での社会規範の中で生きるサラリーマンとの戦いを繰り広げる様子を描いています。近現代社会の仕組みと個人のはざまの葛藤を、寓話的なイメージによって構成した作品を紹介いたします。



《^{あゝ} 怒涛の閉塞艦^{どとう}》2012年 東京都現代美術館蔵 Photo by Kei Miyajima
木版（墨／和紙、パネル） 181.0×418.0cm



《デイスリンピック2680》2018年 作家蔵（A.P.） Photo by Kei Miyajima
木版（和紙、油性インク） 242.4×640.5cm



《第一次幻惑大戦》2017年 横浜美術館蔵 Photo by Kei Miyajima
木版（油性インク／和紙、パネル） 182.5×362.0cm

作家略歴

風間サチコ（かざま さちこ）

1972年東京都生まれ、東京都在住。一つの画面に様々なモチーフが盛り込まれ構成された黒い木版画を中心に制作する。主な個展に、「Tokyo Contemporary Art Award 2019-2021 受賞記念展：風間サチコ 'Magic Mountain'」（東京都現代美術館、東京、2021年）、「風間サチコ展 ―コンクリート組曲―」（黒部市美術館、富山、2019年）、「ディスリンピア 2680」（原爆の図丸木美術館、埼玉、2018年）などがある。シドニービエンナーレ（オーストラリア、2024年）、横浜トリエンナーレ（神奈川、2017年）、光州ビエンナーレ（韓国、2016年）などの国際展をはじめ、国内外で数多くの展覧会に参加。



作家インタビュー

本展開催にあたり作家にインタビューを行いました。動画でご覧いただけます。
https://youtu.be/3q1AXoVL7d4?si=UH5_8xttZsFw6HPF

プレスツアー

日時 | 2026年6月5日（金）14：00－15：00
会場 | 弘前れんが倉庫美術館 展示室

本展関連プログラム

開幕セレモニー

日時 | 2026年6月5日（金）15：15－
会場 | 弘前れんが倉庫美術館
申込み | 不要
WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/13569/>

オープニングトーク「ぼんやりラウンドトーク」

日時 | 2026年6月6日（土）14：00－15：30
会場 | 展示室内
出演 | 風間サチコ、公募参加者（後日、募集します）
料金 | 無料（要観覧券）
申込み | 予約優先 WEB（Peatix）または 電話 0172-32-8950
※4月11日（土）10：00より予約受付開始
WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/13571/>

学芸スタッフによる解説ツアー

日時 | 2026年6月13日(土)、8月8日(土)、9月12日(土)、10月10日(土)、
11月14日(土) 各日14:00-14:30

料金 | 無料(要観覧券)

申込み | 不要

集合場所 | 1階 受付前

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/13573/>

映画上映会

『カリガリ博士』

日時 | 2026年6月21日(日) ①10:30- ②14:00- 上映時間 56分

会場 | スタジオB

料金 | 一般1,000円、大学生・専門学校生500円、高校生以下無料

H-MOCAメンバーズ800円

定員 | 各回30名

申込み | 予約優先 WEB (Peatix) または 電話 0172-32-8950

※5月2日(土)10:00より予約受付開始

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/13575/>

【H-MOCAメンバーズ限定】

ナイトツアー：テクニカル・ディレクターと見る展覧会の裏側

展覧会の会場作りを担うスタッフがガイドになって、閉館後の展示室を巡ります。

日時 | 2026年7月4日(土)17:30-18:30

会場 | 展示室内

料金 | 無料

対象 | H-MOCAメンバーズ

申込み | 予約優先 WEB (Peatix) または 電話 0172-32-8950

※5月23日(土)10:00より予約受付開始

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/13577/>

ワンコイン・ナイトミュージアム(展覧会の夜間開館)

3日間限定で、19:00まで展覧会を観覧いただけます。

17:00以降に入場される方は、観覧料が500円になります。

日程 | 2026年7月11日(土)、9月19日(土)、9月20日(日)

時間 | 19:00まで(最終入場18:30)

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/13579/>

風間サチコによるワークショップ「ぼんやりスパイ活動」

日時 | 2026年9月5日(土) 13:30-16:30

会場 | スタジオB

料金 | 無料(要観覧券)

定員 | 10名

対象 | 小学5年生から大人まで ※小学生は保護者の同伴が必要

申込み | 予約制

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/13581/>

※詳細は後日ウェブサイトで発表

その他のプログラム

「れんが倉庫部」による建築ガイドツアー

当館のボランティアプログラム「れんが倉庫部」の部員がガイド役となり、館内を巡りながら建物の歴史や見どころを解説します。

日時 | 2026年6月20日(土)、7月18日(土)、8月15日(土)、9月19日(土)、
10月17日(土) 各日 11:00-11:30

料金 | 無料

申込み | 不要

集合場所 | 1階 エントランス

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/13583/>

開館6周年イベント れんがひろばの縁日

日程 | 2026年7月11日(土)、7月12日(日)

会場 | れんがひろば(土淵川吉野町緑地、弘前れんが倉庫美術館前)

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/13585/>

※詳細は後日ウェブサイトで発表

このほかにも会期中さまざまなプログラムを予定しています。
後日次第ウェブサイトで発表します。

展覧会カタログ

本展の公式カタログは、会期中に発行予定です。

同時開催

コレクション展 2026

2020年に開館した弘前れんが倉庫美術館では、「記憶を宿した空間と共振する」「世界への入り口になる」「地域から生まれる」をキーワードに、この土地ならではのコレクション形成をめざしてきました。コレクション展では、国内外のアーティストによる収蔵作品を公開しています。今回は、弘前生まれで幅広い表現活動を展開した寺山修司をテーマにした小沢剛《帰って来た S.T.》を展示。そのほか、煉瓦造りの建物や地域に合わせて制作された作品を中心としたコレクションをご紹介します。

出品作家 | 小沢剛、川内理香子、奈良美智ほか

会期 | 2026年6月5日(金) - 11月15日(日)

会場 | 弘前れんが倉庫美術館

本展ウェブサイト |

<https://www.hirosaki-moca.jp/exhibitions/collection2026/>

※風間サチコ展の観覧券で本展をご覧いただけます



小沢剛《帰って来たS.T.》(部分)
2020年
弘前れんが倉庫美術館蔵

コレクション展関連プログラム

H-MOCA レクチャー

コレクションをより深く知っていただく機会になることを目指して、2025年から「H-MOCA レクチャー」と題した連続講座を開催しています。弘前や津軽地方の文化や風土に触発されて生まれた当館のコレクションが美術の歴史の中でどのような位置付けにあるのか、世界のアートシーンと比べてみたらどう見えるのか、作品の制作背景や、社会とのつながりを多角的に読み解きながら、アートを探る視点を育むことのできるプログラムです。

[A] 小沢剛《帰って来た S.T.》

講師 | 佐々木蓉子 (当館アシスタント・キュレーター)

日程 | 2026年7月25日(土) 14:00 - 15:00

※6月20日(土) 10:00より予約受付開始

[B] 奈良美智《A to Z Memorial Dog》

講師 | 澤田諒 (当館テクニカル・ディレクター)

日程 | 2026年9月26日(土) 14:00 - 15:00

※8月22日(土) 10:00より予約受付開始



[A] [B] 共通

会場 | ライブラリー

料金 | 無料

定員 | 各回 15名

申込み | 予約優先 WEB (Peatix) または 電話 0172-32-8950

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/13587/>

開催概要

展覧会名 [和] : 風間サチコ展：方丈ルームの 1000 里眼
展覧会名 [英] : *KAZAMA Sachiko: Clairvoyance in a 9 m² room*
会期 : 2026 年 6 月 5 日 (金) - 11 月 15 日 (日)
会場 : 弘前れんが倉庫美術館 (青森県弘前市吉野町 2-1)
開館時間 : 9 : 00 - 17 : 00 (入館は閉館の 30 分前まで)
休館日 : 火曜日 (ただし 8 月 4 日、8 月 11 日、9 月 22 日、11 月 3 日は開館)、
8 月 12 日 (水)、9 月 24 日 (木)、11 月 4 日 (水)
観覧料 [税込] : 一般 1,600 円、大学生・専門学校生 1,000 円、高校生以下 無料

※その他以下の方は無料

弘前市内の留学生の方 / 満 65 歳以上の弘前市民の方 / ひろさき多子家族応援パスポートをご持参の方 / 障がいのある方と付添の方 1 名

弘前市民料金 : 一般 1,000 円、大学生・専門学校生 500 円
(要証明書提示、他の割引との併用不可)

主催 : 弘前れんが倉庫美術館
特別協賛 : つみえ基金、スターツコーポレーション株式会社
協賛 : 株式会社大林組、株式会社 NTT ファシリティーズ
協力 : 無人島プロダクション
後援 : 東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森放送、青森テレビ、
青森朝日放送、エフエム青森、FM アップルウェーブ、弘前市教育委員会
一般問合せ : TEL 0172-32-8950
アクセス : JR 弘前駅より

- 弘南バス・土手町循環バス「中土手町」下車 徒歩 約 4 分
- 徒歩 約 20 分
- タクシー 約 7 分

当館には駐車場はございません

公共交通機関をご利用いただくか、近隣の有料駐車場をご利用ください

本展ウェブサイト : <https://www.hirosaki-moca.jp/exhibitions/kazama-sachiko/>

SNS : Instagram/Threads @hirosaki_moca
X @hirosaki_moca
Facebook @hirosaki.moca

美術館について

弘前れんが倉庫美術館は、明治・大正期に酒造工場として建設され、戦後はシードル工場として使われた煉瓦造の建物です。建築家の田根剛が改修を手がけ、2020年に現代美術館として開館しました。弘前をはじめとする東北地域の歴史や文化を継承しつつ、この土地や建物に呼応するような、国内外の先進的なアーティストたちによる作品を紹介しています。

ウェブサイト : <https://www.hirosaki-moca.jp/>



弘前れんが倉庫美術館 外観
©Naoya Hatakeyama

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当: 大澤、石川

TEL : 0172-32-8950 FAX : 0172-55-5982 E-mail : press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

2026年3月19日

弘前れんが倉庫美術館 E-MAIL: press@hirosaki-moca.jp / FAX: 0172-55-5982 宛

弘前れんが倉庫美術館
「風間サチコ展：方丈ルームの1000里眼」
広報画像申請書

会期：2026年6月5日（金） - 11月15日（日） 会場：弘前れんが倉庫美術館

▼貴媒体についてお知らせください

媒体名	貴社名	
ご担当者名	所属部署	
ご住所 〒		
TEL	FAX	E-MAIL
掲載・放映予定日 月 日	<input type="checkbox"/> 読者プレゼント（招待券）を希望する 組 名様（2026年10月末迄掲載対象）	

* 画像1点以上ご掲載の場合、本展の招待券10枚まで提供します。 / 美術館までの交通費は自己負担のご案内をお願いします。

▼ご希望画像の番号に○印をつけてください。ご使用の際は所定のキャプション・クレジットの記載をお願いします。

広報画像 キャプション・クレジット

- 風間サチコ《ありがとう、我が愛する白鳥よ！》2026年 作家蔵 ©Sachiko Kazama Courtesy of the artist and MUJIN-TO Production Photo by Kei Miyajima
- 風間サチコ《白鳥の聲が聞こえる》2026年 作家蔵 ©Sachiko Kazama Courtesy of the artist and MUJIN-TO Production Photo by Kei Miyajima
- 風間サチコ《噫！怒涛の閉塞艦》2012年 東京都現代美術館蔵 Photo by Kei Miyajima
- 風間サチコ《ディスリンピック2680》2018年 作家蔵（A.P.） Photo by Kei Miyajima
- 風間サチコ《第一次幻惑大戦》2017年 横浜美術館蔵 Photo by Kei Miyajima
- ※作家ポートレート
- ©Naoya Hatakeyama

▼広報画像の掲載について

- ・ 広報画像の使用は展覧会をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。
- ・ 広報画像をご掲載いただく場合、所定のキャプション・クレジットを必ず記載してください。
- ・ 全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせはご遠慮ください。
- ・ 掲載記事、番組内容については、基本情報確認のため、可能な範囲でゲラ刷り・原稿の段階で広報担当までメールまたはFAXでお送りください。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川

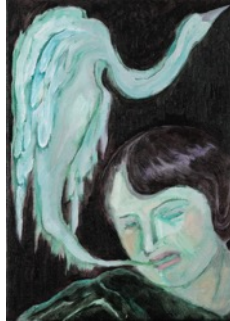
TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1

▼広報画像一覧

1



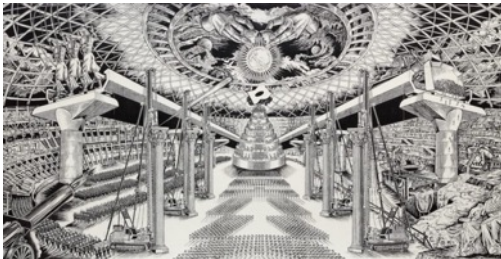
2



3



4



5



6



7



広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1